

ロザリオの月に

主任司祭 吉池 好高

十月は聖母のロザリオの月です。私たちの高円寺教会でも、ロザリオの月の伝統は大切に守られています。三月のあの震災以来、ミサの終わりに被災地の方々のために祈り続けてきましたが、今月皆で唱えるロザリオにも、その特別な想いを込めて聖母におささげしたいと思います。

私たちになじみ深いルルドの聖母の腕にはロザリオが垂れています。その聖母のロザリオは、私たちがロザリオに込めて祈る祈りを、聖母がしっかりと受け止めていてくださるしるしのように思えます。そしてまた、その聖母のロザリオは、私たちの祈りの中で聖母がともに祈ってくださるしるしのようにも思えます。さらには、私たちが祈れなくなっているときに、聖母が私たちを聖母の祈りに招くために、私たちに代わって祈ってくださるしるしのようにも思えます。聖母の祈りは、私たちとともに祈ってくださる祈りです。聖母の祈りは、私たちのために、私たちの祈りを祈ってくださる祈りです。聖母の祈りの中に、私たちの祈りの全ては受け止められているのです。

ロザリオを携えて、ルルドにご出現された聖母は、私たち全ての者の母として、御子イエスのお側に、天の栄光のうちに上げられた聖母です。聖母の腕に垂れるロザリオと、私たちがそれをもって祈るロザリオによって、私たちの祈りは天の聖母の祈りに結ばれ、その聖母の祈りが私たちの祈りの中に広がってゆくのです。ロザリオの祈りを唱える時、私たちは聖母の祈りを祈っているのです。そして、その祈りは、天の御父の栄光のうちに、その御子とともにおられる聖母の祈りです。地上の子らの全ての苦しみを、母の心をもってとりつぐ祈りです。

ロザリオの祈りを唱える時、私たちは聖母の心とひとつになって祈るよう招かれています。私たちはそのようにロザリオを祈ってきました。苦しみの中にある人から祈りを頼まれた時、ロザリオの祈りの中で、その人のことを思って、その人のために祈ってきました。私たちにとってロザリオの祈りはそのような祈りです。